

ハナモモの増やし方を知ろう！



ハナモモの増やし方には、種を蒔くことと挿し木をすることの2つの方法がある。

種を蒔く方法では、大きな種のため発芽について様々なことが学べる。

種を蒔くと芽が出てくる。大きな種なので土に埋もれたまま。そこから”芽”が出てくる。このような芽生えを「地下子葉型」の芽生えという。



種の根元を観察すると、殻(果実の一番内側の皮)が割れて、中に緑色をした部分がある。



芽生えた個体の種の殻を割ってみると、中から丸い種の中身が出てきた。下にある褐色のものは割った殻である。右の写真は中にあった殻の中身で、丸いものを開いてみたもの。

丸いものは”子葉”だった。地下子葉型の発芽は地中に子葉が残って開かない発芽だったのだ。



ハナモモの若苗

芽生えた個体は数個の鱗片葉をつけた後に大きな葉をつける。このとき光合成もしているが、子葉の中の栄養分も使っている。